

健診結果等を個人を軸に集積し自らの健康管理に活用できるシステムの構築とその利活用に関する実証研究
-PHR アプリケーションを実利用に対するアンケート調査-

1. 研究の背景、目的

近年、スマートフォンが普及し、国民の多くが、あらゆる情報にスマートフォンでアクセスするサービス形態に慣れ親しむようになった。個人が、健診データをスマートフォンでアクセスできるサービスは、広く受け入れられる可能性が高く、自らの健康管理の意識を高め、予防行動、受療行動を効果的に誘導できる可能性がある。

我々は、健診データを個人に提示し健康への行動変容を誘導するために、自身の健康状態を一覧で把握できる「健康状態一覧画面」と健診データの解釈情報をスマートフォンで提示する Personal Health Record (PHR) アプリケーションを開発した。

本研究では大学や企業の健診診断を受診した受診者を対象に、自身の健康診断結果を開発した PHR アプリケーション上に提示し、その使い勝手を評価していただくことを目的とする。

2. 対象

大阪大学キャンパスライフ健康支援センター、およびダイハツ保健センターで健康診断を受診し、本研究への参加の同意を得られた大阪大学職員ならびダイハツ職員

3. 方法

同意がとれた健康診断受診者の健康診断結果を大阪大学キャンパスライフ健康支援センター、およびダイハツ保健センターが csv あるいは xml 形式で出力し、我々が開発した健康状態一覧画面、健康診断結果の解釈情報提示画面を実装した Personal Health Record (PHR 社がクラウドサービスとして提供) にデータを登録する。この際、受診者の e-mail アドレスも登録され、登録者にログイン情報が e-mail にて通知される。

受診者のアンケートは Google Form で作成し、同意書に記載された e-mail アドレスに Google Form URL を付けて送付し、回答の依頼を行う。アンケートは匿名で行い、研究協力者とアンケート回答者の対応付けは行わない。

質問項目は添付資料 4 に示す如く、1) 肥満 (BMI)、血圧、脂質異常症、糖尿病の判定結果 (正常 / 要経過観察 / 要再検査 / 要受診 / 受診中)、2) 喫煙の有無、3) 健康状態一覧画面や健康診断結果の解釈情報提示画面と紙で返却された健診結果の比較 (どちらが見やすいか)、4) 健康状態一覧画面や健康診断結果の解釈情報提示画面が行動変容につながるか、5) 企業の健診結果を Personal Health Record として個人が電子的に管理する意義、6) Personal Health Record サービスを受ける場合の利用料金について、7) 匿名化された健診結果の二次利用 (研究期間や企業での利用) について、となる。

4. アンケート回答者の基本情報

アンケート依頼者：大阪大学 60名 ダイハツ工業株式会社 31名

アンケート回答者：大阪大学 46名(回収率:76.7%) ダイハツ工業株式会社 21名(回収率:67.7%)

表 1. アンケート回答者の性別と年齢

	男性	女性	総計	要改善者の割合
18 歳から 29 歳	5 (2)	6 (1)	11 (3)	27.3%
30 歳から 39 歳	8 (5)	7 (2)	15 (7)	46.7%
40 歳から 49 歳	12 (9)	13 (5)	25 (14)	56.0%
50 歳以上	10 (8)	6 (5)	16 (13)	81.3%
総計	35 (24)	32 (13)	67 (37)	55.2%

表 2. 医療系専門職と非医療系専門職の人数

	人数	要改善者の割合
医療系専門職	22 (13)	59.1%
非医療系専門職	45 (24)	53.3%
総計	67 (37)	55.2%

表 3. アンケート回答者の令和元年度の健診結果

	血圧	脂質異常症	糖代謝／糖尿病
正常	53	42	52
軽度異常	4	17	9
要再検査		1	
要経過観察	4	6	5
要治療	1	1	
治療中	5		1
総計	67	67	67

	BMI
18.5 未満	8
18.5 以上 25 未満	46
25 以上 30 未満	11
30 以上 35 未満	2
総計	67

表 1. から 3.

※ ()内は要改善者の数

※健康者:健診の判定で、血圧、脂質異常症、糖代謝／糖尿病の全てが正常で、BMI が 25.0 未満のもの

要改善者:健診の判定で、血圧、脂質異常症、糖代謝／糖尿病の一つでも正常でなかったもの、
あるいはすべて正常であっても BMI が 25.0 以上であった者

◇ 要改善者は 55.2%で、年代が上がるほどその割合は高かったが、18 歳から 29 歳でも 27.3%を占めた。

◇ 男性が女性に比べ、要改善者の割合は高かった。

◇ 医療系専門職と非医療系専門職で、要改善者の割合は変わらなかった。

◇ 大阪大学では人間ドック受診者が電子データとして保存されておらず、研究対象から除外された。このため、研究計画時よりも高齢者の割合が少なくなっている。

5. アンケート結果

5-1. 健康に対する意識

①ふだん、自分を健康だと思いますか

表 4. 現在の健康に対する意識

	18 歳から 29 歳	30 歳から 39 歳	40 歳から 49 歳	50 歳以上	総計
非常に健康である	2 (0)	1 (0)	2 (0)		5 (0)
まあ健康である	9 (3)	11 (5)	20 (11)	11 (8)	51 (27)
あまり健康でない		2 (1)	3 (3)	5 (5)	10 (9)
健康でない		1 (1)			1 (1)
総計	11 (3)	15 (7)	25 (14)	16 (13)	67 (37)

※ ()内は要改善者の数

表 5. 健康者と要改善者での現在の健康に対する意識の違い

	健康者	要改善者
非常に健康である	16.7%	0.0%
まあ健康である	80.0%	73.0%
あまり健康でない	3.3%	24.3%
健康でない	0.0%	2.7%

・要改善者で現在の健康が「非常に健康である」と考えるものはいなかった。

②あなたは、ご自身の健康に関してどの程度関心がありますか

表 6. 自身の健康への関心

	18 歳から 29 歳	30 歳から 39 歳	40 歳から 49 歳	50 歳以上	総計
とても関心がある	4 (1)	4 (2)	8 (3)	8 (5)	24 (11)
どちらかというに関心がある	6 (2)	10 (5)	14 (9)	7 (7)	37 (23)
どちらかというに関心がない	1 (0)	1 (0)	2 (2)	1 (1)	5 (3)
まったく関心がない			1 (0)		1 (0)
総計	11 (3)	15 (7)	25 (14)	16 (13)	67 (37)

※ ()内は要改善者の数

表 7. 健康者と要改善者での現在の自身の健康に関する興味の違い

	健康者	要改善者
とても関心がある	43.3%	29.7%
どちらかというに関心がある	46.7%	62.2%
どちらかというに関心がない	6.7%	8.1%
まったく関心がない	3.3%	0.0%

◇ 要改善者は健康者に比較して、自身の健康に関する興味が「とても関心がある」割合は低かったが、「とても関心がある」、「どちらかというに関心がある」を合わせると、同程度の割合となった。

③あなたは、ご自身の健康改善に向けて、これまで取り組みを行ってきましたか

表 8. 健康改善に向けた取り組み

	18 歳から 29 歳	30 歳から 39 歳	40 歳から 49 歳	50 歳 以上	総計
とても取り組んでいる		1 (1)	2 (1)	1 (1)	4 (3)
どちらかというに取り組んでいる	8 (2)	9 (4)	10 (3)	11 (8)	38 (17)
どちらかというに取り組んでいない	1 (0)	3 (0)	12 (10)	4 (4)	20 (14)
まったく取り組んでいない	2 (1)	2 (2)	1 (0)		5 (3)
総計	11 (3)	15 (7)	25 (14)	16 (13)	67 (37)

※ () 内は要改善者の数

表 9. 健康者と要改善者での健康改善に向けた取り組みの違い

	健康者	要改善者
とても取り組んでいる	3.3%	8.1%
どちらかというに取り組んでいる	70.0%	45.9%
どちらかというに取り組んでいない	20.0%	37.8%
まったく取り組んでいない	6.7%	8.1%

◇ 要改善者は健康者に比較して、健康改善に向けた取り組みについて「とても取り組んでいる」割合と、「どちらかというに取り組んでいない」、「まったく取り組んでいない」割合が多かった。

ごく一部は健康改善に向けて取り組んでいるが、多くは健康改善に向けた意識が少ないことが示唆される。

5-2. PHR サービスを閲覧した結果、自身の健康状態の把握と改善への意思

①PHR サービスで用いた感想についてお聞かせください

「健康診断結果」、「健診ナビ」、「健診レポート」画面の比較

健康診断結果

検査値 グラフ

健康診断結果の掲載は健診日から約1~2か月後になります。
 なお、メールアドレスをご登録いただいた方には掲載時にご連絡をさせていただきます。
 ※3か月が経過しても掲載されない場合はヘルプデスクまでお問い合わせ下さい。

○ 検査値の背景色：□は参考基準値外を示しています。

2019/04/01 (48歳)

健診種別
Diff-106(4)

身体計測

身長 [cm]	175.9
体重	100

健診ナビ

経過ナビ あなたの変化を再確認!

48歳のわたし (2019/04/01)

BMI ↑ 40.0
 最高血圧 ↑ 160
 最低血圧 ↓ 100

43歳と比べて・・・
 「体重」 +35 kg
 「血圧」 +79/+35 mmHg

体重推移

+10kg	+10kg	+5kg	+5kg	+5kg
47歳 (2018/04/01)	46歳 (2017/04/01)	45歳 (2016/04/01)	44歳 (2015/04/01)	43歳 (2014/04/01)
35.0	30.0	25.0	18.5	16.0
159	139	129	100	81

健診レポート

去年：2019/04/01 (48歳)

前回より +10.0kg

肥満 高血圧 脂質異常症 糖尿病

体重	100
BMI	40
腹囲	86.5
収縮期血圧	160
拡張期血圧	100

①-1. 現在の健康状態の把握について

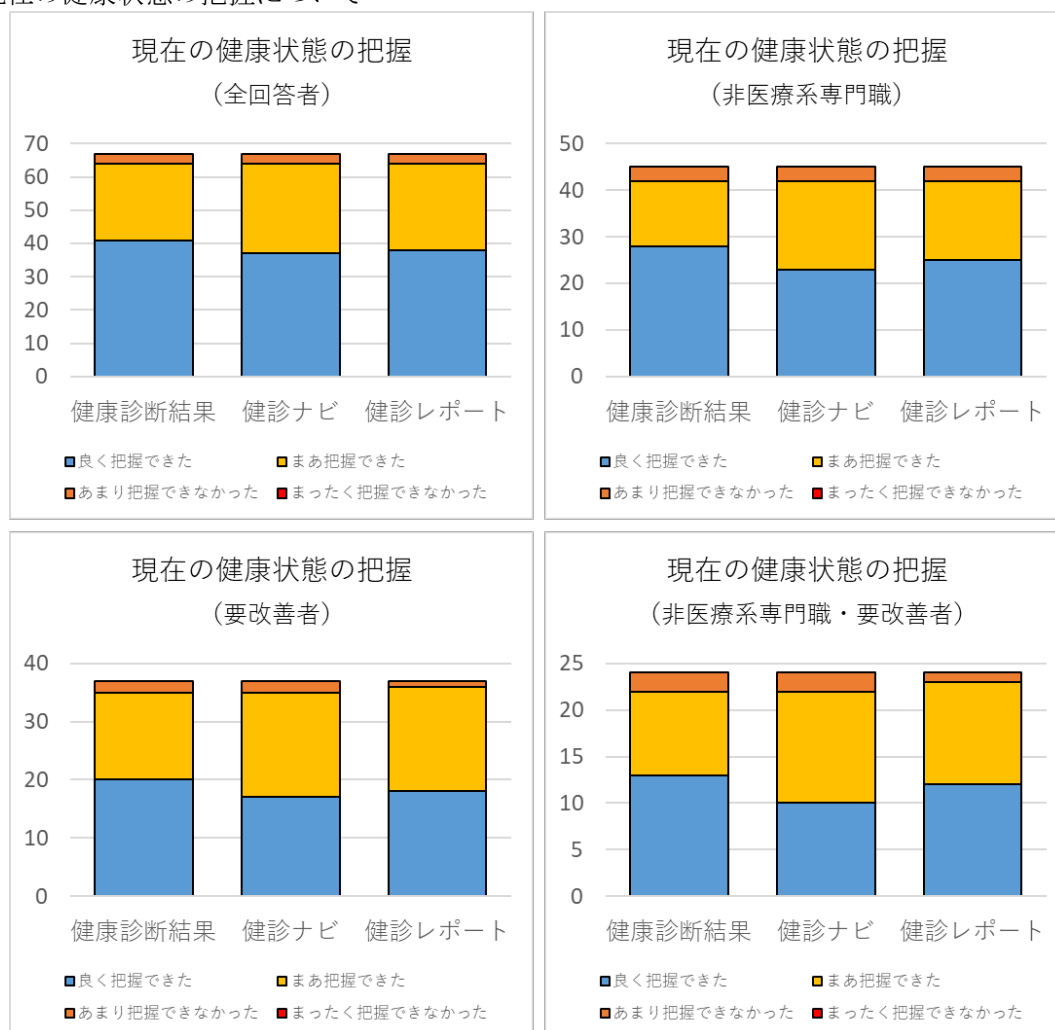


図 1. 現在の健康状態の把握

①-2. 現在と過去の健康状態の把握について

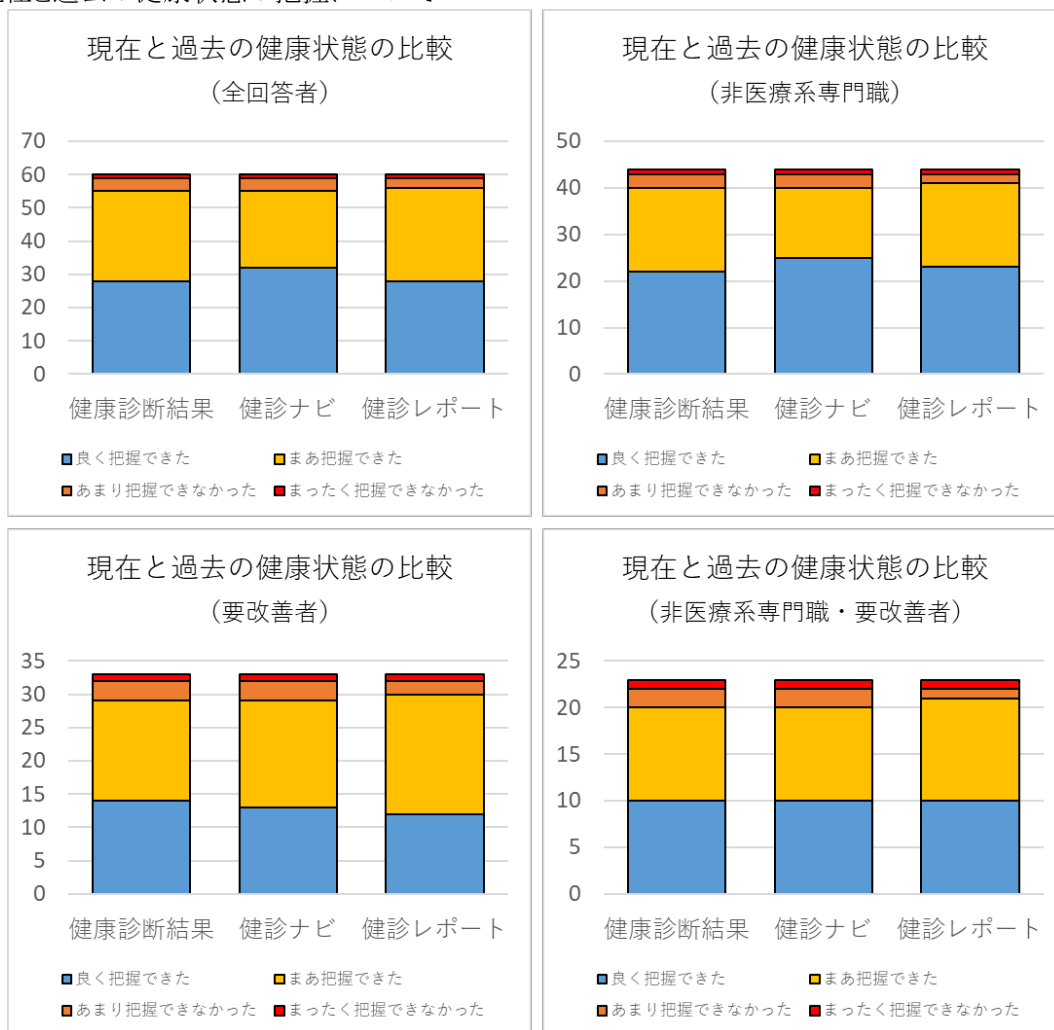


図 2. 現在と過去の健康状態の把握

- ◇ 現在の健康状態の把握、現在と過去の健康状態の把握について、「健康診断結果」、「健診ナビ」、「健診レポート」ともに、良好に把握ができていた。
- ◇ 非医療系専門職の要改善者についても、多くが「良く把握できた」、「まあ把握できた」との結果であったが、「健診レポート」が「あまり把握できなかった」、「まったく把握できなかった」と回答した人数が少なかった。

②PHR サービスを閲覧した結果、自身の健康への関心に変化はありましたか

表 10. 自身の健康への関心の変化(全回答者)

	現在の自身の健康への関心				総計
	とても 関心がある	どちらかという 関心がある	どちらかという 関心がない	まったく 関心がない	
とても関心が深まった	9	7	2		18
まあ関心が深まった	14	24	3		41
あまり関心が深まらなかった	1	6		1	8
まったく関心が深まらなかった					
総計	24	37	5	1	67

表 11. 自身の健康への関心の変化(非医療系専門職)

	現在の自身の健康への関心				総計
	とても 関心がある	どちらかという 関心がある	どちらかという 関心がない	まったく 関心がない	
とても関心が深まった	6	6	2		14
まあ関心が深まった	7	17	3		27
あまり関心が深まらなかった		3		1	4
まったく関心が深まらなかった					
総計	13	26	5	1	45

表 12. 自身の健康への関心の変化(要改善者)

	現在の自身の健康への関心				総計
	とても 関心がある	どちらかという 関心がある	どちらかという 関心がない	まったく 関心がない	
とても関心が深まった	4	4	2		10
まあ関心が深まった	7	16	1		24
あまり関心が深まらなかった		3			3
まったく関心が深まらなかった					
総計	11	23	3		37

表 13. 自身の健康への関心の変化(非医療系専門職・要改善者)

	現在の自身の健康への関心				総計
	とても 関心がある	どちらかという 関心がある	どちらかという 関心がない	まったく 関心がない	
とても関心が深まった	2	3	2		7
まあ関心が深まった	3	11	1		15
あまり関心が深まらなかった		2			2
まったく関心が深まらなかった					
総計	5	16	3		24

◇ PHR サービスを閲覧した結果、多くの方が自身の健康への関心が深まった。

◇ 現在の自身の健康への関心が「どちらかという関心がない」と回答した5名(うち、非医療系専門職/要改善者は3名)は、「とても関心が深まった」、「まあ関心が深まった」と回答を行った。

③PHR サービスを閲覧した結果、自身の健康改善に向けて取り組もうと思いましたが
表 14. 自身の健康改善に向けた取り組み (全回答者)

	現在の健康改善に向けた取り組み				総計
	とても取り組んでいる	どちらかというに取り組んでいる	どちらかというに取り組んでいない	まったく取り組んでいない	
強く思った	3	10	3	2	18
まあ思った		24	12	2	38
あまり思わなかった	1	4	3	1	9
健康状態に問題がなく、改善に取り組む必要はない			2		2
総計	4	38	20	5	67

表 15. 自身の健康改善に向けた取り組み (非医療系専門職)

	現在の健康改善に向けた取り組み				総計
	とても取り組んでいる	どちらかというに取り組んでいる	どちらかというに取り組んでいない	まったく取り組んでいない	
強く思った	2	7	3	1	13
まあ思った		15	10	2	27
あまり思わなかった		1	2	1	4
健康状態に問題がなく、改善に取り組む必要はない			1		1
総計	2	23	16	4	45

表 16. 自身の健康改善に向けた取り組み (要改善者)

	現在の健康改善に向けた取り組み				総計
	とても取り組んでいる	どちらかというに取り組んでいる	どちらかというに取り組んでいない	まったく取り組んでいない	
強く思った	3	5	2	2	12
まあ思った		11	10	1	22
あまり思わなかった		1	1		2
健康状態に問題がなく、改善に取り組む必要はない			1		1
総計	3	17	14	3	37

表 17. 自身の健康改善に向けた取り組み (非医療系専門職・要改善者)

	現在の健康改善に向けた取り組み				総計
	とても取り組んでいる	どちらかというに取り組んでいる	どちらかというに取り組んでいない	まったく取り組んでいない	
強く思った	2	3	2	1	8
まあ思った		6	8	1	15
あまり思わなかった			1		1
健康状態に問題がなく、改善に取り組む必要はない					
総計	2	9	11	2	24

- ◇ PHR サービスを閲覧した結果、多くの方は自身の健康改善に向けて取り組もうと思ったと回答を行った。
- ◇ 現在の健康改善に向けた取り組みを「どちらかというに取り組んでいない」、「まったく取り組んでいない」と回答した 20 名 (うち、非医療系専門職/要改善者は 13 名)のうち 16 名 (うち、非医療系専門職/要改善者は 12 名)は健康改善に向けた取り組みを「強く思った」、「まあ思った」と回答し、行動変容の可能性が示された。

③PHR サービスを閲覧した結果、自身の健康改善に向けて取り組もうと思いましたが紙の健診結果と電子的な健診結果(PHR サービス)を比較した感想をお聞かせください

表 18. 紙の健診結果と電子的な健診結果の比較

	医療系専門職	非医療系専門職	総計
電子的な健診結果(PHR サービス)が良い	18	34	52
紙の健診結果が良い	1	4	5
どちらでもない	3	7	10
総計	22	45	67

◇ 多くのアンケート回答者は電子的な健診結果(PHR サービス)が良いと考えた(一部は紙の健診結果が良いと回答している)。

フリーコメント

- ・健康診断結果の各検診項目がどういうものであるのかが少しわかりづらいため、説明があればよいと思った。
- ・昔のやつもでてくるのは良いと思います。自分ではまったくおぼえていなかったもので、よかったです。
- ・スマホアプリで健診ナビなどを切り替えるのに、右上のボタンを押して、My データを押してから選択するのが面倒だった。右上のボタンをクリックすると、健診ナビなどが直接選べるようになっていて、使いやすいと感じた。健康状態を画像のイメージで確認できるのは良いと思う。
- ・ぜひ紙をやめてこちらにしてほしい。
- ・健康座標の見方がよくわかりませんでした。
- ・総コレステロールの基準値が紙の値と異なっていた。
- ・イラストが各所に出てくるので親しみやすい印象です
- ・日頃より、健康に対する意識が高まりました。
- ・スマホで結果をいつでも参照できるのは健康に関心をもつために良い
- ・15年前からの健診記録を閲覧でき、とても参考になりました。老化を実感できました。
- ・可視化されていて見やすい(理解しやすい)
- ・紙で結果をもらうのと違って無くす心配もないし、カラフルで見やすく良いと思います。
- ・健診ナビの経過ナビで、体重の増減がわかりますが、実際の体重も表記されているといいかなと思いました。
- ・特定保健指導の項目に内容が絞られており、イラストや色分けで見やすく良かった。ただし、解説は文章のみで少し分かりにくい印象があった。
- ・健診ナビの()にある数字は基準値だと思われませんが、[基]など分かりやすくしてもよいかもしれません
- ・シンプルなものが良い

5-3. PHR サービスで用いたシェーマに関して

①PHR サービスで用いたシェーマのデザインについて感想をお聞かせください

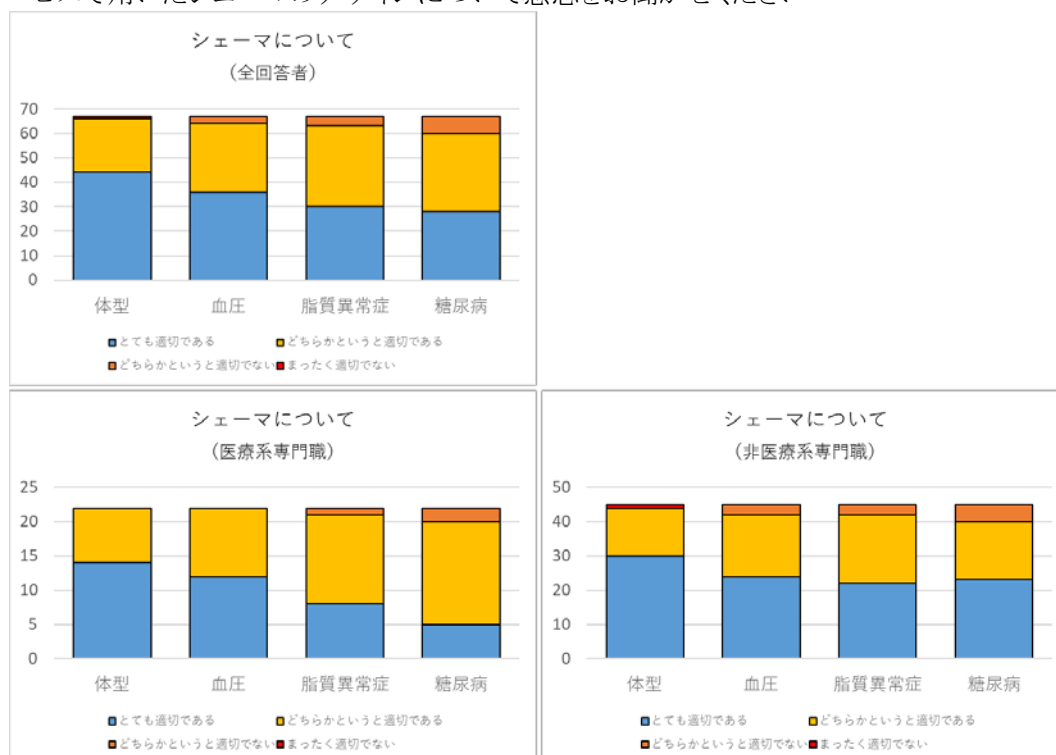


図 3. シェーマのデザインについての感想

②PHR サービスで用いたシェーマの色使いについて感想をお聞かせください

表 19. シェーマの色使いについて

	医療系専門職	非医療系専門職	総計
とても適切である	1	22	23
どちらかという適切である	3	17	20
どちらかという適切でない		3	3
まったく適切でない			
未回答	18	3	21
総計	4	42	46

②喫煙のシェーマについて感想をお聞かせください(喫煙者のみ)。

表 20. 喫煙のシェーマについて

	医療系専門職	非医療系専門職	総計
あったほうが良い	5	7	12
ないほうが良い	0	0	0

フリーコメント

- ・一目でわかるため危機意識が強まり、効果的であると感じた。
- ・血糖は sugar でもよいですが、炭水化物をイメージさせる絵でもよいかと思いました。
- ・色使いが良いと感じた。
- ・色は赤以外も使うと判別が簡単
- ・赤がハイリスクというのはわかりやすいのですが、色が入り交じると見にくいと思いました。

☆ シェーマデザインについては多くが「とても適切である」、「どちらかという適切である」を選択したが、体型＞血圧＞脂質異常症＞糖尿病の順に適切と思う割合が減った。この結果は班会議の議論の結果と同じであった。

- ◇ 医療系専門職、非医療系専門職で見ると、医療系専門職が「とても適切である」と回答する割合が低くなっていた。
- ◇ シェーマの色使いについては、多くが「とても適切である」、「どちらかという適切である」を選択し、班会議で指摘された問題点は指摘されなかった。
- ◇ 喫煙のシェーマはすべての方が良かったほうが良いと回答を行った(喫煙者のみ)。

5-4. PHR サービスで用いたフィードバックコメントに関して

①PHR サービスで用いたフィードバックコメントについて感想をお聞かせください

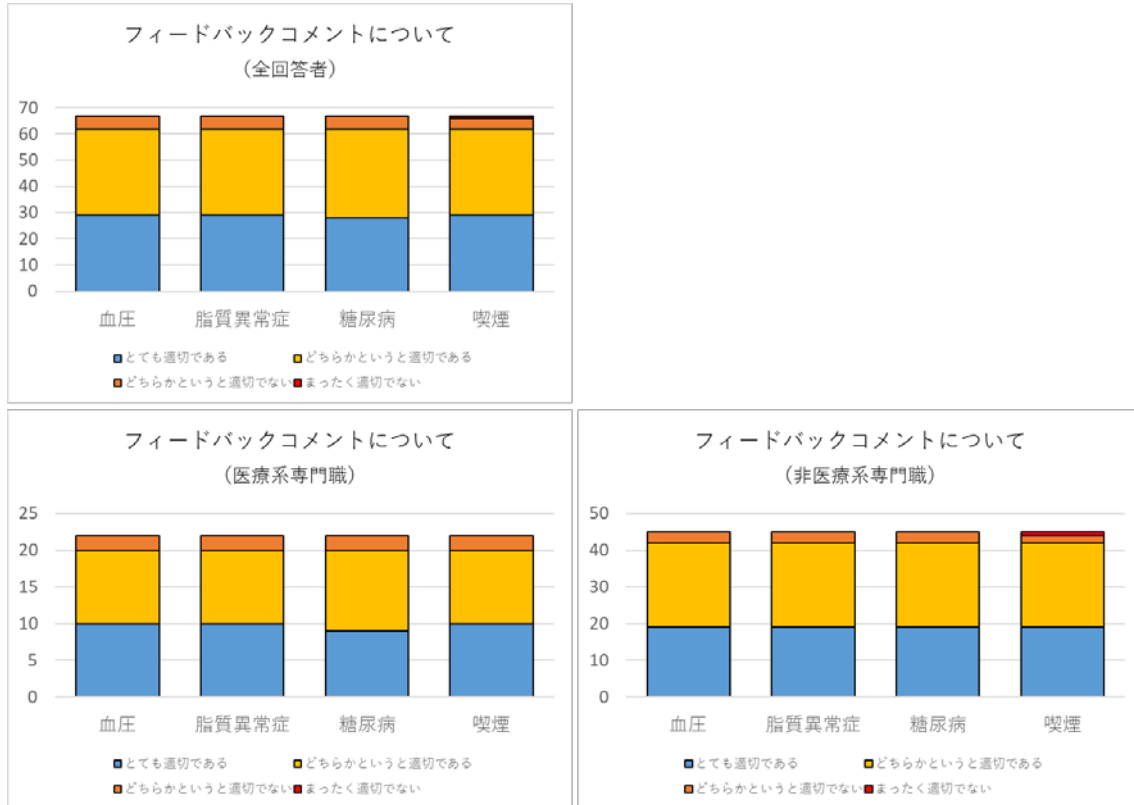


図 4. フィードバックコメントについての感想

フリーコメント

- ・文章が詰まっておき、少し読みづらかった。
- ・漢字と文字数が多すぎる
- ・改行等の工夫でもう少し見易くなるのではないかと感じました
- ・行間がもう少し広い方が読みやすいと感じた。() 書きは、最後に補足としてある方が理解しやすいと感じた。
- ・アイコンを押すと自分用のコメントがポンッと出てきてハッとさせられました。いいと思います。
- ・コメントが文字ばかりで長くてあまり読む気がしなかったです。もう少しわかりやすい表記だとよいのですが。
- ・社員の保健指導を対応していると、内容が一般的過ぎてあまり意識に残らないように感じた。文章のみだったとしても、もう少し見てほしいポイントや などメリハリをつけたほうが良いと感じた。
- ・喫煙のコメントはとても良いと感じました
- ・HbA1c の意味を加えてもよいかもしれません。
- ・HDL は禁煙と運動で増加することを強調してもよいかもしれません

- ◇ フィードバックコメントは多くの方が「とても適切である」、「どちらかという適切である」を選択した。
- ◇ 文字数が多く読みづらいとの回答があったが、行間などのレイアウトの工夫で改善できる可能性が示唆された。

5-5. PHR サービスの継続利用ニーズと維持費用

①あなたは、PHR サービスを、継続して利用したいと思いますか

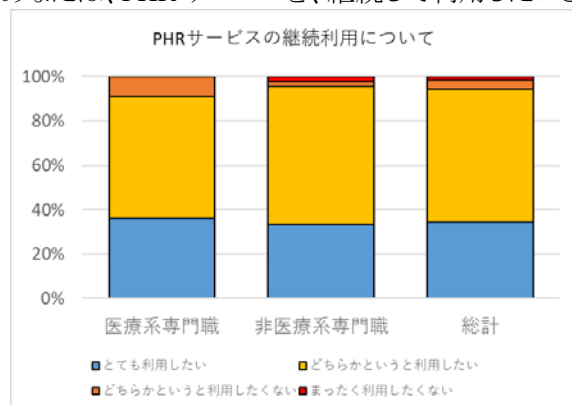


図 5. PHR サービスの継続利用ニーズ

②あなたが、PHR サービスを継続利用する場合、サービスにいくら支払いますか

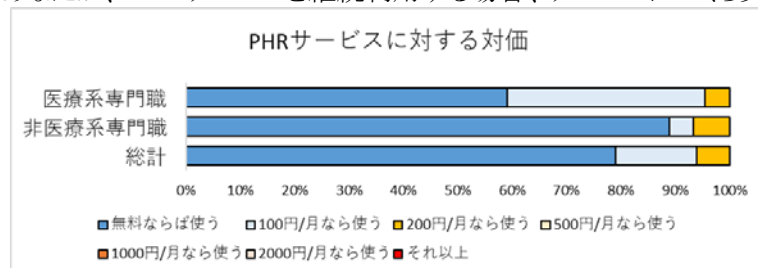


図 6. PHR サービスに対する対価

表 21. PHR サービス継続利用のニーズと料金支払いの意思

	PHR サービス継続利用のニーズ				総計
	とても利用したい	どちらかという利用したい	どちらかという利用したくない	まったく利用したくない	
無料ならば使う	19	31	2	1	53
100円/月ならば使う	3	6	1		10
200円/月ならば使う	1	3			4
500円/月ならば使う					
1000円/月ならば使う					
2000円/月ならば使う					
それ以上					
総計	23	40	3	1	67

- ◇ PHR サービスの継続利用については、多くの方が「とても利用したい」、「どちらかという利用したい」を選択した。特に、非医療系専門職が医療系専門職に比べて、継続利用の希望が多い結果であった。
- ◇ 一方、PHR サービスに対する対価は、「無料ならば使う」が大勢を占め、対価を払うとしても、月 100 円、あるいは 200 円で、それ以上の金額は選択されなかった。選択された金額から考えて、現実的な回答と思われる。
- ◇ 医療系専門職は対価を払う意思の割合が非医療系専門職に比べて高かった。医療系専門職が考える価値と、非医療系専門職が考える価値に乖離がある可能性がある。
- ◇ 今回、大学、企業と安定した雇用の対象者(企業からサービスを受けるものとする)であることも、「無料ならば使う」と回答者が多かった原因と考えられる。

③以下の各機関はPHR運営主体としてどの程度望ましいと思いますか

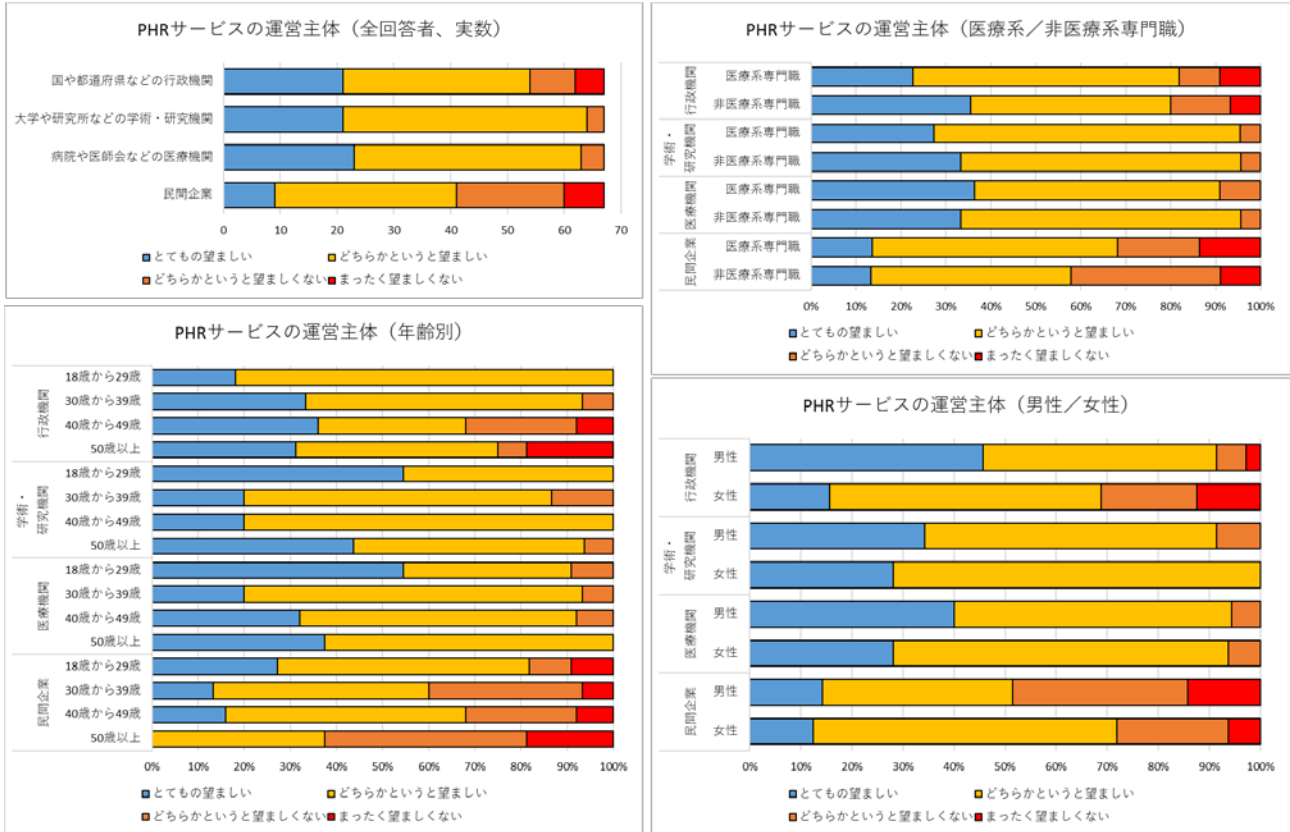


図 7. PHR サービスの運営主体

- ◇ PHR サービスの運営主体は「学術、研究機関」、「医療機関」が望ましいと考える割合が高かった。
- ◇ 行政機関が好ましくないとするのは、40歳以上の高齢者、女性が多い結果であった。
- ◇ 民間企業は、他に比べ、好ましくないとする割合が多かった。好ましくないとする人は、医療系専門職に比べ、非医療系専門職が多かった。年齢では29歳以下の若年者を除く年齢層に好ましくないとする人が多かった。行政機関が好ましくないとするのは女性が多かったが、民間企業が好ましくないとするのは男性が多かった。

④あなたは健診 PHR で以下のサービスを利用したいと思いますか

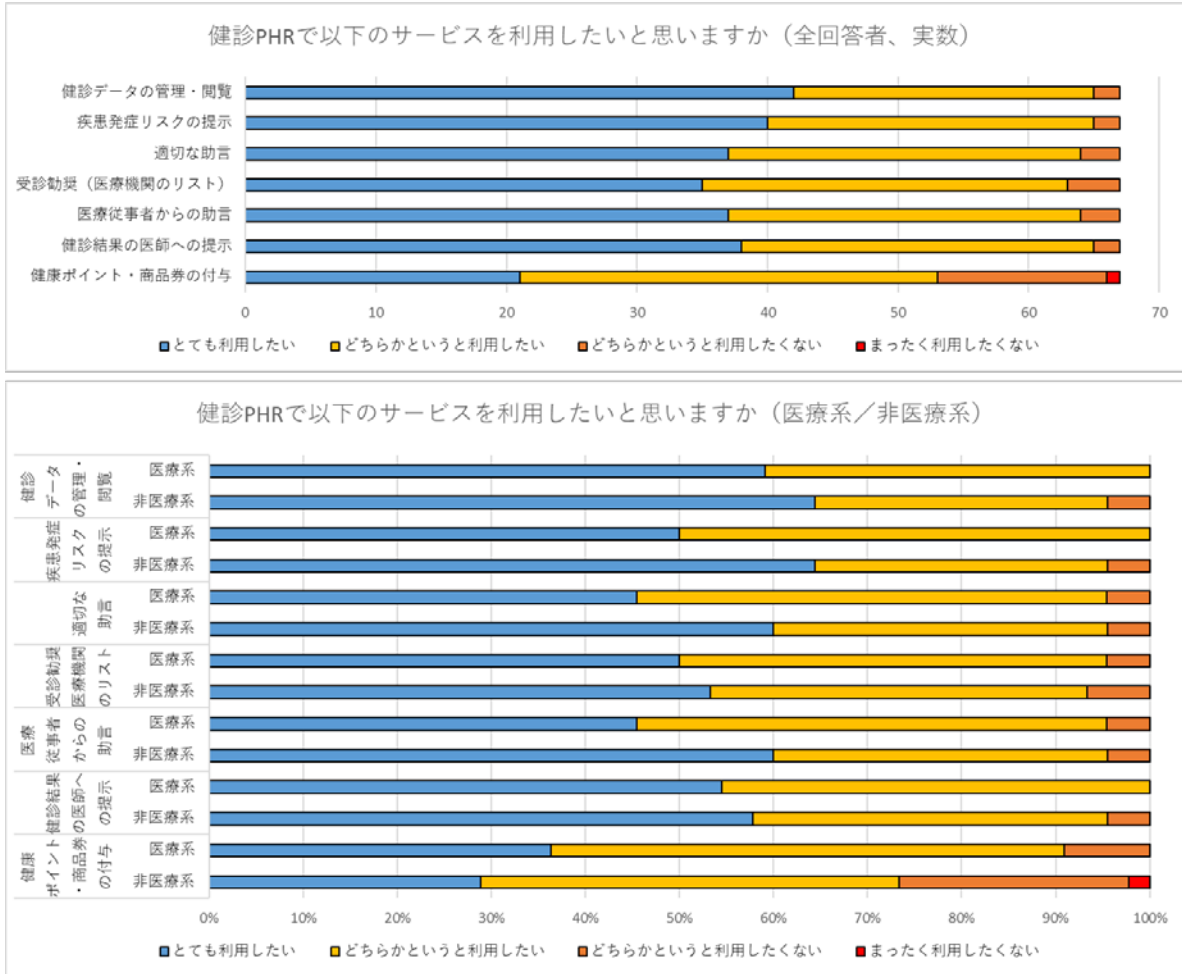


図 8. PHR で必要なサービス

⑤あなたは健診 PHR にどのような機能が追加されると良いと思いますか

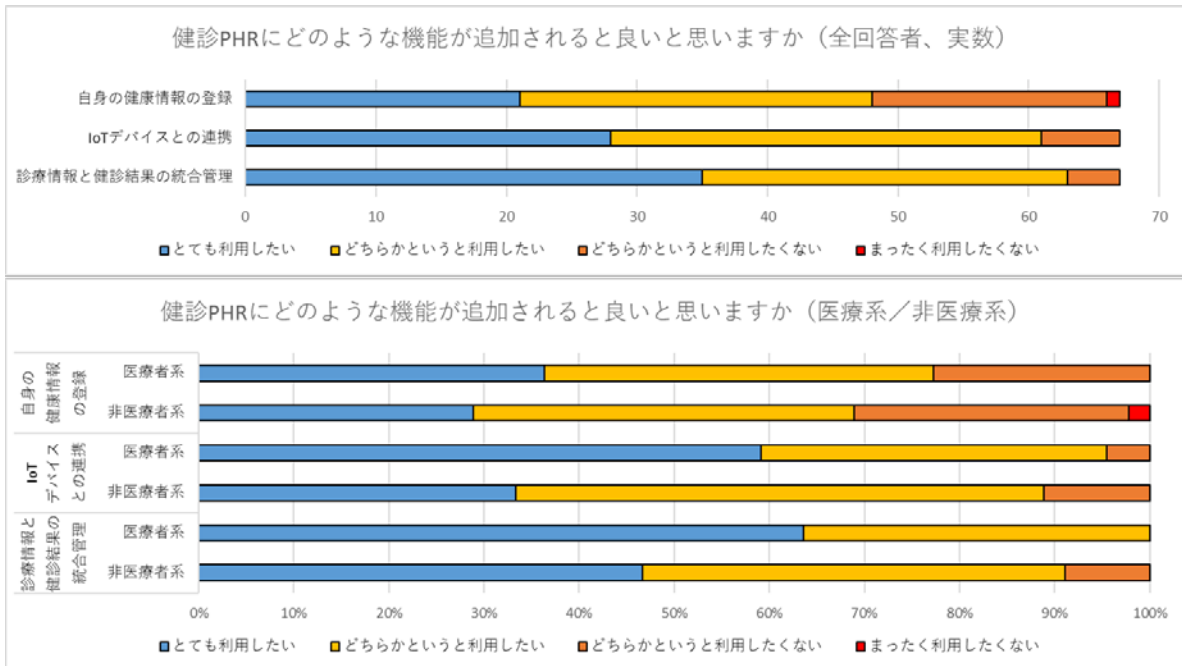


図 9. PHR で追加が望まれる機能

フリーコメント

- ・お薬手帳との連携。
- ・ほかの健康管理アプリとの連携
- ・高齢の親の PHR を親の同意のもとに遠隔地に住む子供が把握できる仕組み
- ・自分のデータを様々な医療機関で共有できるとよい
- ・病院にかかった履歴などを残せるようにしたいのと、活動量計のデータも自動で飛ぶようにできればと思います。
- ・個人での利用よりも、社員や患者などに健康管理ツールとして取り入れやすい金額を考えると無料であったり、月々の個人費用よりも、法人契約などで割安でしてもらいたい。または最近、自治体独自のアプリなどあるのでそれと連携してもらい地域医療と連携できるといいのかもと思った。

- ◇ PHR サービスで利用したい機能として、健康ポイント、商品券の付与は他に比べ、「どちらかという利用したくない」、「利用したくない」の割合が大きかった。特に非医療系専門職でその割合が多く、医療系専門職がサービス提供を考える場合の意識の違いとなる可能性がある。
- ◇ PHR サービスに追加されるべき機能として、自身の健康情報の登録、IoT デバイスとの連携、診療情報と健診情報の統合管理はある程度のニーズが確認できた。一方、医療系専門職と非医療系専門職では非医療系専門職の方がニーズは少なかった。

⑥あなたは健康・健診・医療情報利用において情報漏えいをどの程度不安に思いますか

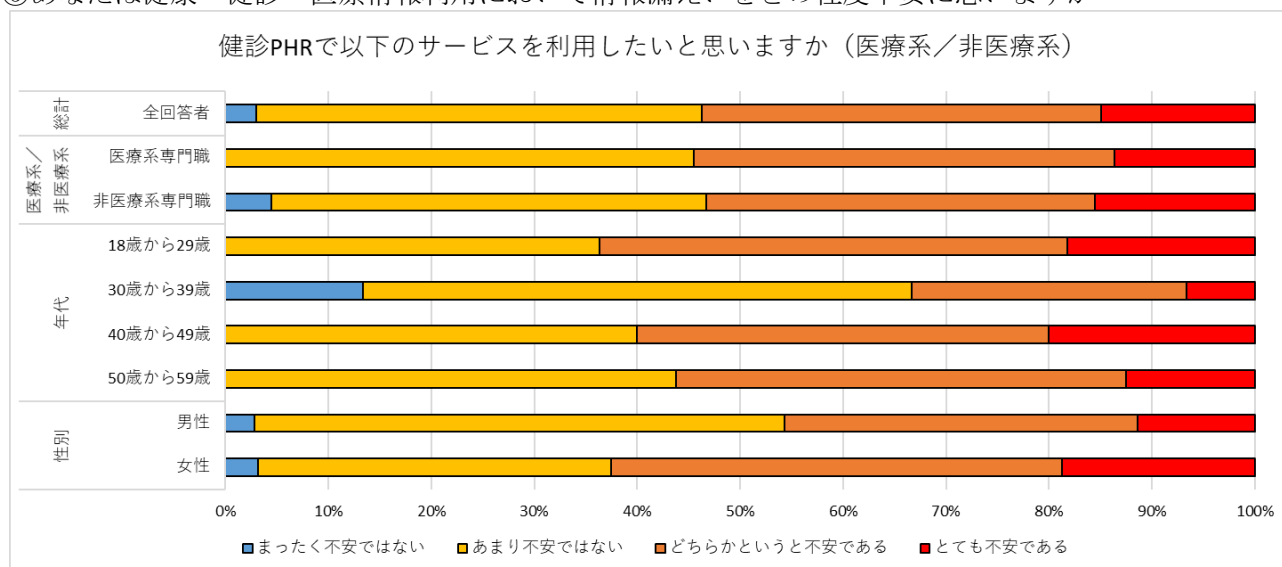


図 10. 情報漏洩への不安

- ◇ いずれの層も情報漏洩に対する不安は大きく、PHR サービス展開には、インターネットセキュリティに対する丁寧な説明が必須であると考えられる。

5-6. PHR サービスデータの二次利用について

①あなたは、以下の各種項目へ、匿名の形で自らの健診情報を利用することに賛成ですか

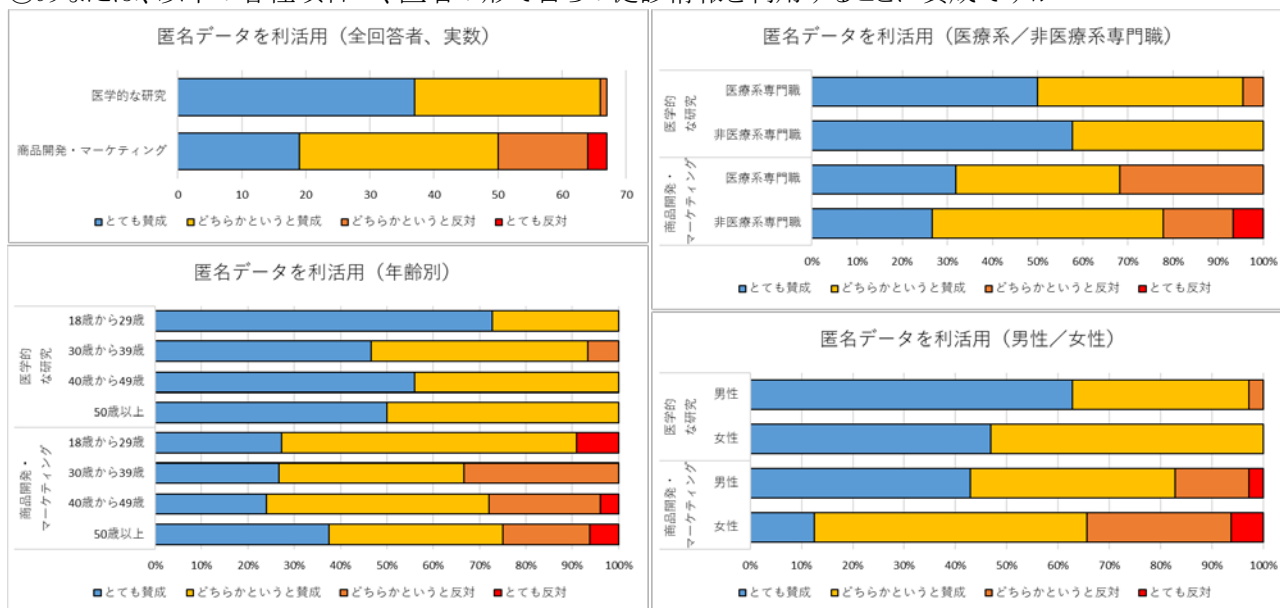


図 11. PHR サービスの二次利用

②あなたは匿名データを利活用する主体として、以下の各機関についてどのように考えますか

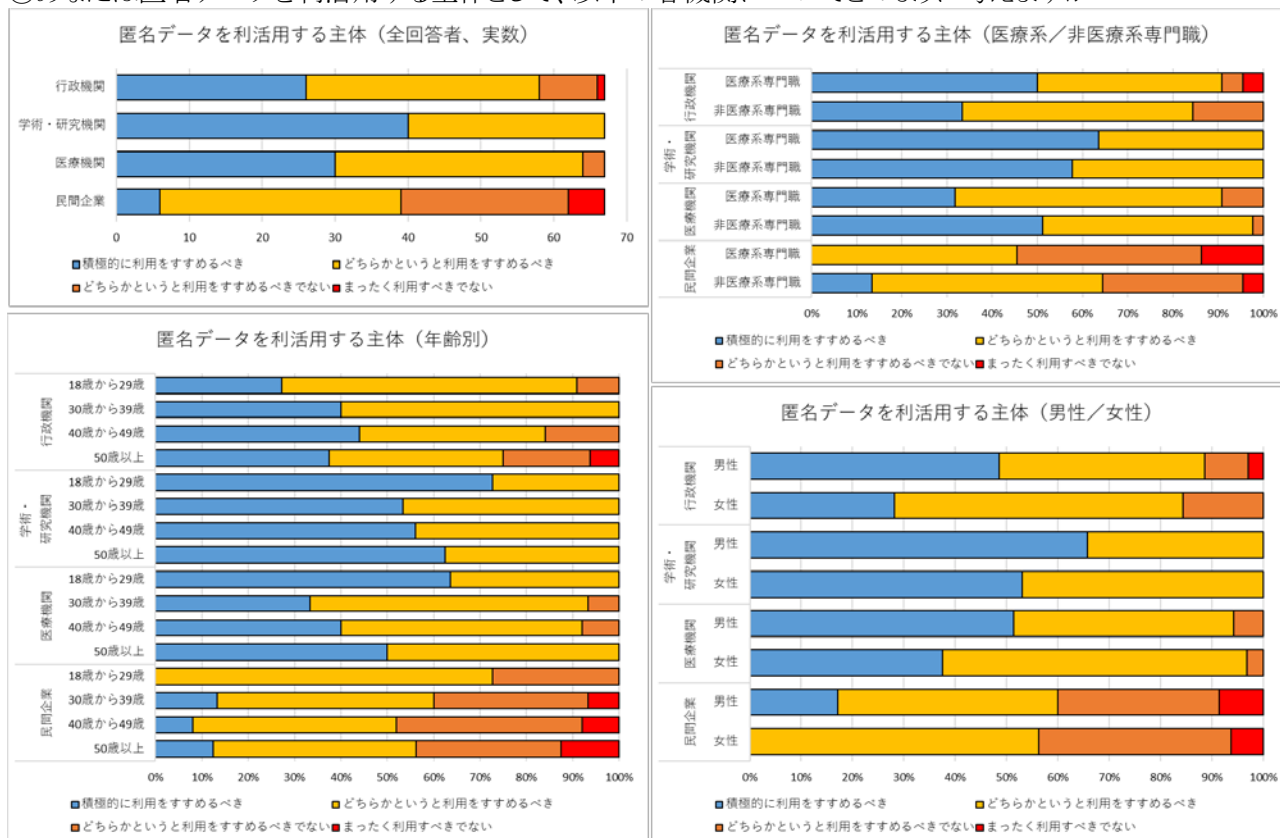


図 11. PHR サービスの二次利用の主体

◇ PHR サービスデータの二次利用については、医学的な研究については肯定的な意見が多かったが、商品開発・マーケティングについては、否定的な意見も少なくなかった。29 歳以下の若年者は商品開発・マーケティングに対しても肯定的な意見が多かったが、それ以外の年齢層は否定的な意見が目立った。また、女性の方が否定的な意見が多い結果であった。

- ◇ 匿名データを利活用する主体としては、学術・研究機関や医療機関に対しては肯定的な意見が多数を占めた。行政機関や民間企業は否定的な意見も認めた。
行政機関は非医療系専門職の方が、否定的な意見が多かった。一方、民間企業については、医療系専門職の方が否定的な意見が多かった。